中山間地域におけるコミュニティの形成と実態について

福島工業高等専門学校　学生会員○清水佐久夜
正会員　齊藤充弘

１．はじめに

中山間地域は他地域と比べると，人口減少が著しく進行しており，「限界集落」という言葉に表されるように社会的問題として注目されている。その原因は，少子高齢化や若い世代を中心とする他地域への人口流出によるものである。また，そのことにより近年では，地域のつながりであるコミュニティの衰退が著しく，住民同士のつながりが希薄となっていることが先行調査[1), 2)]において報告されている。このような社会問題が進行している一方で，都市部と比較して伝統ある祭りや行事，風習が多く存在していることは，中山間地域のもつ一つの魅力・財産である。歴史ある伝統的なコミュニティを消滅させないためにも，中山間地域における地域特有のコミュニティを貴重なまちづくり資産として捉え，将来に向けて維持し，継承していく必要がある。

本研究は，中山間地域として位置づけられるいわき市三和町を対象として，大字単位の地区毎にコミュニティの形成と活動の実態について明らかにすることを目的とするものである。具体的には，コミュニティの内容を具体的に把握し，その現状を明らかにする。その上で，今後も維持・継承していくために，現状それを支えているシステムを明らかにし，まちづくりの展開に活かすことができるのかについて追究していく。

２．研究対象と方法

（１）研究対象（いわき市三和町について）

本研究の対象とするいわき市三和町は，40 年が経過した広域合併都市・いわき市の中でも西部の阿武隈高地に位置し，旧市町村であるいわき市内 13 地区の中でも最大の面積を誇る中山間地域である。人口は昭和 35 年の 7,831 人をピークに一貫して減少傾向にあり，平成 22 年国勢調査(中間報告)によると，人口 3,424 人，世帯数 1,080 であり，平成 17 年の調査と比較すると，変化率が−11.4%，−2.9%と減少している。高齢化率も30%を超えており，地区（集落）によっては，限界集落間近であると危惧されている。空間構成としては，大字 11 地区を単位として独自の文化や歴史を有し，コミュニティが形成されており，山間地の中にあってすべての地区に川が通っており，豊富な野生の動植物にみる自然豊かな地域である。

（２）研究方法

コミュニティの存在を明らかにするために，研究方法としては第一に，文献調査により，名称，起源，内容について明らかにする。その上で，第二に，現地調査を通してその内容について具体化・明確化を図る。さらに，第三に，地域のことを良く知る人を対象としてヒアリング調査を実施して不明な点の解消に努め，コミュニティの現状としてデータベースを作成する。以上のことを通して，大字 11 地区単位にみるコミュニティの形成と分布について追究していく。

３．コミュニティの形成と実態

（１）起源にみるコミュニティの形成

現存するコミュニティについて，起源を基に分類し，11 地区毎にみたものが表−1 である。その結果，「神社祭典」，「伝統行事・祭り」，「その他・行事」の 3 つに分類することができた。全体としては，「神社祭典」が 38，「伝統行事・祭り」が 96，「その他・行事」が 152 であり，合計 286 と数多くのコミュニティが現存していることがわかった。これを地区単位でみてみると，町内で最も東に位置する合戸地区が 35 と最も多く，次いで中三坂地区が 33，上三坂地区と渡戸地区が 31 となっており，いずれも他地区と比較して「伝統行事・祭り」が多い形となっている。

（２）コミュニティの活動拠点の分布

祭りの開催地となる「神社・仏閣」をはじめ，コミュニティの活動拠点により分類した結果，「自然・公園」と「公共施設」を加えた 3 つに分類することができた。合計 178 ある中で，地区毎の分布をみたものが表−2 である。これをみると，差塩地区が 21 と最も多く，他地区と比較して「自然・公園」が 8 と多いことが

表−1　起源にみるコミュニティの形成と分布

地区		上三坂	中三坂	下三坂	差塩	上永井	下永井	合戸	渡戸	中寺	上市萱	下市萱	合計
分類	神社祭典	3	7	1	4	3	5	3	6	2	3	1	38
	祭り・行事	13	10	5	6	6	7	15	10	11	6	7	96
	その他・行事	15	16	11	11	11	15	17	15	14	15	12	152
合計		31	33	17	21	20	27	35	31	27	24	20	286

表−2　コミュニティの活動拠点の分布

地区		上三坂	中三坂	下三坂	差塩	上永井	下永井	合戸	渡戸	中寺	上市萱	下市萱	合計
分類	神社・仏閣	12	11	8	10	9	8	8	10	8	7	8	99
	自然・公園	3	3	6	8	6	5	2	5	2	4	7	51
	公共施設	2	2	1	3	3	4	3	2	3	2	3	28
合計		17	16	15	21	18	17	13	17	13	13	18	178

キーワード：中山間地域，まちづくり，コミュニティ，伝統行事，世代間交流
連絡先：〒970-8034　福島県いわき市平上荒川字長尾 30　福島工業高等専門学校建設環境工学科　TEL 0246-46-0830

表れる形となっている。次いで上永井地区と下市萱地区が 18 となっており，やはり「自然・公園」が多いことが表れる形となっている。

その内容を具体的にみてみると，「神社・仏閣」については，御塚神社が 11 地区全てにおいてみることができる。御塚神社とは，山岳信仰を起源として成立しているものであり，小高い山の上に存在している。これは，山間地域という地域特性が表れる形となっているということができる。また，「馬頭観音」が差塩地区を除く 10 地区においてみることができる。これは，馬力神にみる神仏信仰を起源とすることより，やはり牛や馬を飼育している地区という昔からの地域特性が表れる形となっている。

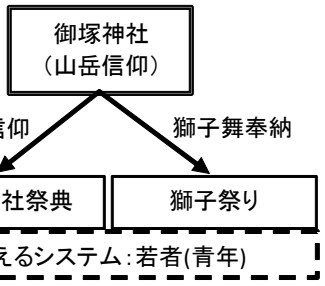
４．コミュニティの形成と広がり

（１）山岳信仰

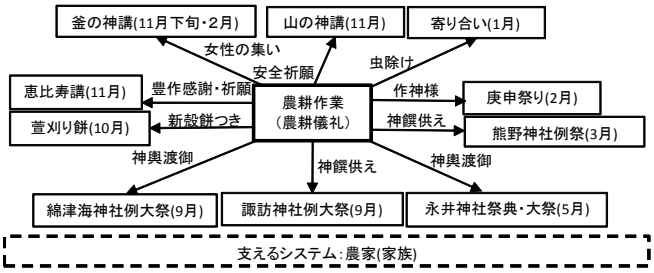
コミュニティの活動拠点の分布において，「御塚神社」が全 11 地区に存在することが明らかとなった。しかしながら，コミュニティとしての「御塚神社祭典」をみることができるのは，中三坂，下三坂，差塩，上永井，下永井，合戸，渡戸の 7 地区であり，三和町内においても東部に位置する小学校区でいうと永戸地区や永井地区にあり，隣接する複数の地区単位で現存する形となっている。また，図－1 にみるように，そこでは獅子舞を奉納するという伝統より，獅子祭りの開催にもつながっている。しかしながら現状，獅子祭りを開催しているのは上永井，下永井の永井地区，合戸，渡戸の永戸地区の隣接する 2 つの地区のみとなっており，他地区においては，差塩地区を例にとると，かつて獅子祭りを開催していたものの，若者が少なくなり，獅子を務める者がいなくなったことにより消失したという過程を把握することができた。

（２）農耕儀礼

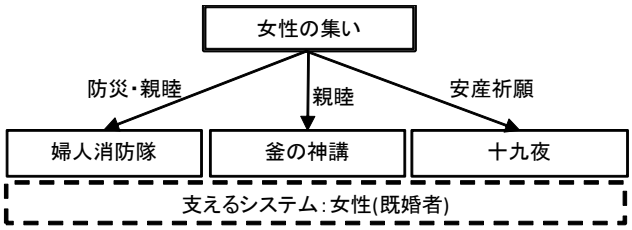
図－2 にみるように，農耕儀礼に関しては，年間を通した催し物の開催をみることができる。年初めの１月に寄り合いを開催して虫除けを祈願することから始まり，５月の田植え前までに，豊作祈願として祭典を行う。そして，収穫後の９月から 11 月にかけては，感謝を神の御前で祝すという形でその年の作物が収穫出来た感謝の喜びを神に讃え，また農作業を手伝ってもらった隣組に御礼をするためとして，風習や祭りを開催することにつながっている。このように，年間を通して農耕儀礼の催しが季節に応じた形となって行われており，秋頃には収穫物の豊作を祈願した大祭を開くなど農作物に対しての伝統や思い入れが大きいことがわかった。この農耕に関する伝統は，昔から現在に至るまで現存する地区では途絶えることなく存在し続けており，時代が変わって農作業を行う人口が年々減少している状況下においても，神仏に対する信仰心の強さと，人とのふれあい，共存し助け合うつながりは変化していないことがわかった。



図－1　コミュニティの形成と広がり（山岳信仰）



図－2　コミュニティの広がり（農耕儀礼）



図－3　コミュニティの広がり（女性の集い）

（３）女性の集い

図－3 にみるように，女性同士のコミュニティも存在している。十九夜と呼ばれる安産祈願や，お嫁さんの親睦を図る釜の神講のように既婚者を中心とするコミュニティが存在している。また，婦人消防隊は，全 11 地区に存在しており，多様な目的の下に活動していることがわかった。

５．おわりに

本研究の成果により，次のことがわかった。

第一に，三和町内大字 11 地区毎にコミュニティの形成と分布を明らかにすることができた。

第二に，コミュニティの分布と活動拠点との関係をみることにより，地区同士の繋がりを明らかにすることができた。そこでは，かつてあったコミュニティの消失過程も明らかにすることができた。

第三に，山岳信仰，農耕儀礼，女性の集いを題材として，コミュニティの広がりを示すことができた。

人口減少・少子高齢化が進行する中で，維持・継承しているコミュニティの内容と実態は，貴重な財産であり，今後のまちづくりを支える重要なシステムとなり得るということができる。

６．参考文献

1）山中進他：山間地域の崩壊と存続，九州大学出版会（2005）
2）関満博：地方圏の産業振興と中山間地域，新評論（2007）